## 胃がんをなくそう　健康づくり講座

講師の下山准教授

「胃の病気の症状・治療を学ぼう」をテーマにした健康づくり講座が11月24日、つがる市民健康づくりセンターで開催され、約60人の市民らが健康に対する意識を高めました。

講座では、弘前大学大学院医学研究科消化器血液内科の下山克准教授が講師として登壇し、ピロリ菌感染による胃がんリスクの増大やピロリ菌除菌の効果などについて解説。また、先進事例として、つがる市が実施する胃がん撲滅検診事業による無料のピロリ菌検診、除菌治療を紹介しました。

下山准教授は「ピロリ菌は口から感染する。まずは感染の有無を調べ、感染している人は子どもに伝えないためにも若いうちに除菌治療を受けてください」と話していました。

## 助け合い支え合う地域づくりを推進

第13回つがる市社会福祉大会が11月25日、松の館で開催され、約300人の市民らがみんなで支える地域づくりに向け決意を新たにしました。

大会では、市内の小中学生6組8人が「福祉の作文」を発表。相手を思いやり助け合うことの大切さや日常の中で自分にできることなど、自身の体験から気づき考えたことを堂々と伝えました。主催者である市社会福祉協議会の平川満昭会長は「社会情勢や住民ニーズの変化に応じた目標を定め、地域福祉の充実を図ってまいります」とあいさつ。続いて地域福祉の向上などに貢献した22人、10団体に対し、平川会長から表彰状および感謝状が伝達されました。

髙橋優菜さん(左)と田村野乃香(右)の作文発表
(ともに木造中3年)

## 子どもたちの笑い声ひびく

表情豊かな三遊亭大楽さん

11月27日、瑞穂小学校（佐々木真校長）で落語鑑賞教室が開催され、在校生と地域住民ら約270人が古くからの大衆芸能を楽しみました。高座に上がったのは大間町出身の三遊亭大楽さん。五代目三遊亭圓楽さんを師事して平成21年に真打昇進。現在は県内に活動拠点を移し、落語をはじめ講演や執筆などマルチな活躍をされています。この日は、「寿限無」や「時そば」などの演目を軽妙な口調で演じ、会場を沸かせていました。また、落語でおなじみの扇子でそばをすする仕草などを児童らが体験。ステージ上で会場の笑いを誘った髙橋才君（4年）は「みんな笑ってくれて楽しかった。大楽さんの人を引き込むしゃべりはすごい」と噺家の技術に感心していました。

## おかず屋が「女性のチャレンジ賞」受賞

市内を中心に惣菜などの移動販売をする「おかず屋」（中村嘉子代表）が、県いきいき男女共同参画社会づくり表彰で女性のチャレンジ賞を受賞しました。この賞は、起業や地域活動などにチャレンジし活躍する女性団体・個人に贈られるものです。

おかず屋は、平成15年に女性農業者が集って開業し、地元の農産物にこだわった料理を販売。市の高齢者配食サービス事業を受託し、お年寄りの見守り役として地域に欠かすことのできない存在であることも評価され、今回の受賞となりました。

11月28日、おかず屋のメンバーが福島市長を表敬訪問。中村代表は「地域の方に支えられてやってきた。これからも皆さんの要望に答えていきたい」と話していました。

福島市長に喜びを報告したおかず屋メンバー

## 幻の水草「ガシャモク」を発見

昨年9月に市内の湖沼で自生が確認された希少な水草「ガシャモク」に関する公開シンポジウムが12月11日、松の館で開催されました。かつて関東地方などに広く分布したガシャモクは、水質汚濁により激減し「幻の水草」に。絶滅危惧種のうち最も危険度が高い「IA類」に分類され、国内で自生するのは北九州市のため池のみとされていました。今回の発見が2例目で、北限が500㎞以上更新されたものです。シンポジウムでは、関係者ら5人が調査の成果や保全活動の事例などを紹介。第一発見者である首藤光太郎新潟大研究員は「長い切れ藻が多いので、深い場所に多数生息していると考える。外来種の侵入や水質などを観察し守っていければ」と話していました。

会場からの質問に答える首藤研究員

ロビーで開かれた職員手づくりのコンサート

## 地域とふれあうコンサート

12月15日、つがる市民診療所で「Xmas ロビーコンサート」が開かれ、市民ら約80人がバンド演奏などを楽しみました。これは、診察や会計の待ち時間を楽しんでもらおうと始めたイベントで、旧成人病センター時代から今年で18回目。昨年からは「つながろう、地域と」をテーマに、地域のデイサービス利用者らも招待して、より多くの市民に親しまれています。

この日は、診療所の職員ら13人がサンタの衣装などに身を包んで登場。クリスマスソングメドレーなどを演奏し、会場は笑顔と拍手で包まれていました。ギタリストとして出演した市民診療所の小倉浩久事務長は「医療・介護の連携を強め、今後も患者サービスに務めていきます」と述べました。

## 五穀豊穣ねがい「三十三俵しめ縄奉納」

木造地区の木作町内会(白戸英行会長)が12月17日、三新田神社(菅井真澄宮司)に三十三俵としめ縄を奉納しました。

同町内会の奉納は平成4年に復活して以来、今回で26回目。約300kgの大しめ縄と三十三俵の米俵は、町内会の有志が五穀豊穣、家内安全、交通安全、商売繁盛などの願いを込めて約1カ月半かけて編んだものです。この日は、拝殿で神事が執り行われたあと、しめ縄と俵を鳥居に取り付け、中央に「戌」の絵を飾り、つがる市登山囃子保存会による登山ばやしで奉納を祝いました。白戸会長は「犬も歩けば棒に当たるといいますが、気を緩めないでいい年にしたい」と話していました。

登山ばやしを奏でる市登山囃子保存会のメンバー

右は小野打泰子第6高射群司令（三沢基地）。となりが主催者の川廣基地司令

## 餅つきで地域との親睦深める

12月20日、航空自衛隊車力分屯基地で餅つき行事が行われ、地域住民と基地関係者ら約120人が、明るい新年を願って威勢よく杵を振るいました。

この日は、新年に年男・年女を迎える隊員や近隣町内会、基地協力会、米陸軍関係者らが「末広がり」の8回ずつ餅をついて交流。餅つき後の食事会では、つきたてをあんこ餅などに調理して振る舞われたほか、基地の三味線部メンバーによる演奏も披露され、参加者は楽しい時間を共有しました。

川廣佳親基地司令は「地域の皆さんとの絆、日米の絆を感じることができた。来年もこのような関係を続けていきたい」と話していました。